

令和5年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和6年2月8日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
魅力ある教育活動に努め、生徒の自ら学ぶ意欲と主体的な態度を育てる。	授業改善	わかりやすい授業、ICTを活用して「他者とかかわり合いながら、自己の見方・考え方を深め、更に学び続けようとする生徒の育成」に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナが第5類に移行され、従来の生活が戻り、生徒は元気に学校生活を送ることができている。 ・ICTをいかした学習指導の研究を推進し、学校体制で活用方法を工夫している。生徒、職員ともに達成感が高く、保護者にも伝わりつつある。 ・基礎的・基本的な学習の定着について教員の意識に対し、保護者の達成の意識が薄い。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを使った学習は安定してきて良い方向に進んでいる。一方で目に届いていない活動も多く、保護者への理解が得られづらい。ICTの活用はとももできていと思うが、アナログな部分も必要であるので、忘れないでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を生き抜く子どもたちにとって、ICTの使用が必須である。その一方で教科ごとの特性を理解し、物事を多方面から考える力を身につけることが必要であるのご指摘であった。各教科の基礎的・基本的な学習の定着のための個に応じた指導の工夫を考えていきたい。
		学習指導要領の趣旨に応じた授業実践を行う。	B				
諸活動を通して、思いやりの心、自らを律する心、感謝する心、挑戦する心を育てる。	人間関係づくり	豊かな体験活動の充実を生かした心に響く道徳教育の推進を図り、さまざまな道徳的価値観に気づき、考えを深める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な生活アンケートと面談により、生徒の不安や悩みを早期発見、対応に努めている。生徒の悩みや困りごとは複雑になっていることから、対応の工夫が必要であると考え。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・生徒・教員のいじめや不登校への対応の感じ方の差を解決したい。教員としてもう少し踏み込んで接していくと良い方向にいくのではないかと。 ・さまざまな立場の外部講師による講話ができていのがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する生徒のニーズに対応できるよう、SCを含めた相談活動や学年を超えた生徒指導、校務支援システムを活用した生徒情報の共有に努め、教員がより個々の生徒とのかかわりを大切にしていきたい。
生徒一人一人の持ち味を生かし、自らを高めるとともに社会集団に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	生徒活動の活性化	生徒がすすんで取り組む活動を奨励し、取り組みの姿勢や成果から形成的に個の成長を認め、達成感と自己有用感を育てる。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員による北中祭や合唱コンクールの運営や生徒会、委員会によるキャンペーンの開催など、生徒の自主的な活動が充実してきている。また、校内外のボランティアへの参加も増加している。 ・感染症の蔓延に対し、速やかに対応したり、熱中症予防を積極的にしたりして、安心安全な学校環境づくりに努めている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の活動は、とても充実している。 ・ボランティア活動におけるサポートをもう少し保護者にもお願いするなど協力要請できるとよかった。 ・感染症や熱中症などによる予防などはとてもよくできていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動について、校内外の取組をより保護者地域とのかかわりを持ちながら進め、生徒のがんばりを教師のみでなく、生徒を取り巻く方々からいただけるようにしたい。また、生徒のがんばりを紹介したり、成長を確認できたりする機会を意識して増やしていきたい。
		積極的・計画的な生活サポートを推進し、迅速な対応、組織的なサポートに努める。	B				
		感染症予防対策の徹底、体を鍛える組織的な教育活動を実践する。	A				
教育諸条件の整備と改善を図り、安心して学ぶ教育環境づくりに努める。	多忙化解消に 関わる 業務改善	行事・諸活動・会議の見直しや精選を行い、よりよい教育活動をめざす。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事では活動内容を精選したり、内容によっては時間の短縮に取り組んだ。また、日課を見直して会議の時間を確保するなどし、時間内での活動の充実を図った。 ・個の情報共有のための校務支援システムの活用個人差があったり、システムの一部しか活用できていない実態がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にPTAやボランティアを利用するなどしている。 ・情報共有や効率化に対する意識を高め、あきらめずに行うとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校活動のなかで保護者にボランティアを依頼することによって、より充実が図れる部分を模索していきたい。 ・個の生徒理解や情報共有を行い、生徒に向き合う時間や職員同士の会話の時間を増やすための校務支援システムの活用例を紹介していきたい。
		事務作業の効率化、情報の共有化を高められる体制づくりを進める。	B				
教職員の相互の信頼と協力体制を基盤とし、創意と活力に満ちた学校教育の創造に努める。	教師の 力量向上と 連携・協力	現職研修を計画的に進め、職員としての専門性を高める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの効率的な活用や危機管理の研修、不祥事防止の研修などを実施し、生徒の安心安全を確保し、教職員の専門性を高める学びをすすめた。 ・ICTの活用を通じた学習指導の研修指定のもと、授業におけるタブレット活用の有効性を学校体制で研究している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もさらなる教員のスキルアップを願う。 ・ICTなど道具の進化に合わせ、有効に使うことが大切である。なぜその道具を使う必要があるのか、教師側から有効性を示すだけでなく、生徒自身に理解させ、使えるよう指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的実施している職員の研修を継続するとともに、その様子をHP等で保護者に紹介し、教職員への理解を求めている。
		職員の持ち味を生かし、連携・協力体制を強めた組織的な教育活動を展開する。	A				
保護者や地域との協力体制を築き、協働して生徒の健全で前向きな生活を支援する。	保護者・地域との 協力体制強化	保護者や地域との情報交換、協力体制構築に努め、安心安全で機能的な学校づくりを進める。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収など地域と協力するが実施できるようになってきた。また、地域ボランティアへの参加やPTA研修会で地域に関する学びを深めることができた。 ・学年通信やHPを活用して、学校の様子の情報発信を行ったが、保護者に十分に伝わっていないと感じる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収の場所による人員の割振や中止時などの地域への連絡方法を検討してほしい。 ・HPを見ていただくよう周知が必要である。 ・資源回収の収益の使い道を周知するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回収については、安全を第一として回数や実施方法を検討し、生徒・保護者・地域が協力して行えるようにしたい。 ・学年通信やHPを活用して、学校の様子の情報発信をさらに図りたい。
		HP、学年通信を積極的に活用し、生徒の活動などの情報発信に努める。	A				

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価：自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】

